

としても利のあることでした。

謙信は、あくまでも交渉の正式ルートは氏康・氏邦主導の由良手筋と認め、氏照の打診は黙殺しようです。これは、氏照の書状に対し、謙信からの返答がないことを氏照が憂いていることから推測できます。

2月に入り、氏康は謙信に起請文を出し、越相同盟の本格的な交渉を進めました。これに対し信玄は、將軍足利義昭を通じ、甲越同盟締結を打診し、謙信に揺さぶりをかけました。さらに信玄は、同月19日に元岩付城主太田道譽(資正)に協力を要請しつつ、20日には児玉郡御嶽に侵攻しました。これには鉢形衆が迎撃に当たりましたが、そのころ氏邦は駿河へ出陣中で、留守衆が対処したもので思われます。26日、氏邦は駿河興津河原で武田方の小荷駄隊の襲撃に成功し、3月13日には武田勢の夜襲を撃退するなど、武勲を挙げています。



北条氏康・氏政連署起請文 (上杉家文書)

野への出兵を要請していました。しかし、謙信が武田領へ出兵することはありませんでした。北条氏にとって、最も重要な要件を果たさない同盟は全く無意味なものでした。さらに、永禄13年1月に謙信は、当時北条方であった佐野昌綱の唐沢山城(栃木県佐野市)を攻めています。この謙信の行動は、氏政に不信感を与えました。また、同盟締結の際、氏政の子である国増丸を上杉氏の養子とする約束が弟の三郎に変更になったことは、氏政の正室が武田氏であったことから、氏政は親武田派であり、上杉氏との同盟には積極的でなかったと思われる。

この三郎の越後入国に際して、謙信は三郎到着までの間の身代わりとして氏邦を指名し、沼田城(群馬県沼田市)へ留めました。三郎との交換は柿崎晴家という重臣でした。三郎は、謙信から「景虎」の名を与えられ、謙信の新たな後継者として名乗りを上げることとなったのです。

越相同盟を主導した氏康が病のため元亀2年10月3日に死去すると、氏政は信玄との「甲相同盟」締結へと外交方針を再度転換しました。同年末には上杉氏と「手切」を交わし、ここに越相同盟は解消し、再度対立することになりました。

## 「古典の日」記念事業歴史講座

# 戦国時代の鉢形城Ⅱ～北条氏邦とその文書～

日程等

期日	時間	場所	講座	講師
11月8日(土)	午後1時30分 ～3時30分	鉢形城歴史館	講座①「北条氏邦の新出史料」	県立文書館学芸主幹・新井浩文氏
11月15日(土)			講座②「北条氏邦と越相一和について」	鉢形城歴史館館長・石塚三夫氏
11月22日(土)			講座③「北条氏邦とその文書」	埼玉県文化財保護審議会委員・浅倉直美氏

対象・定員／高校生以上・40人(原則として3回連続受講できる方。定員を超えた場合は抽選)

費用／無料

申し込み／10月21日(火)(必着)までに、往復はがき(住所、氏名、電話番号を明記)で鉢形城歴史館へお申し込みください。

問い合わせ／鉢形城歴史館(〒369-1224大字鉢形2496-2、☎586・0315)へ。

### 主な展示資料

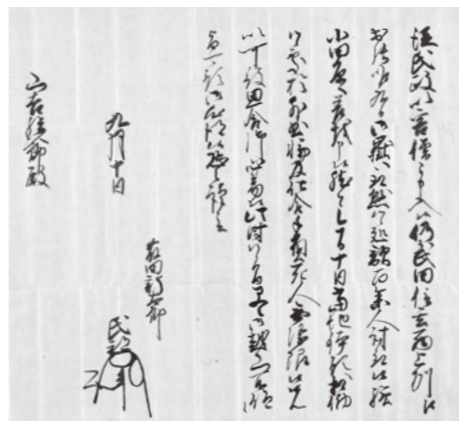
- ・上杉家文書【国宝】(米沢市上杉博物館蔵)
  - ・素懸紫糸威黒塗板物五枚胴具足―伝上杉憲政所用―
  - 【山形県指定文化財】(宮坂考古館蔵)
  - ・上杉謙信並二臣像【新潟県指定文化財】(常安寺蔵/新潟県立歴史博物館保管)
  - ・鉄地黒漆塗縦矧二枚胴具足―伝上杉景勝所用―(個人蔵)
  - ・武田信玄画像(山梨県立博物館蔵)
  - ・六十二間筋兜【山梨県指定文化財】(恵林寺蔵)
  - ・花菱紋蒔絵鞍(恵林寺蔵)
  - ・櫛無鏡写【白河市指定文化財】(鹿嶋神社蔵/白河市歴史民俗資料館保管)
  - ・小幡氏紋付赤備具足
  - ・三増合戦陣図(甘楽町歴史民俗資料館蔵)
  - ・三鱗据金物付黒漆塗十二間筋兜―伝北条氏康所用―(個人蔵)
  - ・黒漆塗日月軍配(個人蔵)
  - ・北条氏康画像(神奈川県立歴史民俗資料館蔵)他 計29点
- ※資料保護のため、会期中に一部展示替えを行います。

相同盟は3月までに双方の起請文が交わされ、4月には「国分」と呼ばれる領土協定の折衝に入っていたと思われる。これに関しては、上杉氏は上野、北条氏は伊豆・相模・武蔵としたものの、河越夜戦以前上杉方であった武蔵北部の領有を謙信が主張したことから、交渉は難航します。また、北条氏は古河公方足利義氏を擁立し、関東管領を称していたことからその扱いも問題となりました。北条氏は、同盟交渉の書状で謙信を「山内殿」と呼んでいることから、関東管領職については譲っています。

### 三増合戦と越相同盟の崩壊

一方、関東の上杉方である佐竹氏や里見氏、太田氏らは、この同盟に反対し、武田氏と結ぼうとします。こうした状況の中、武田信玄も同盟をけん制するため駿河や上野、武蔵北部、秩父などで軍事行動を起こします。9月9日、武田軍は御嶽城(神川町)を攻撃し、翌日には鉢形城を包囲して外曲輪で激戦が行われました。このことは、謙信の重臣で越相同盟の取次役であった山吉豊守に氏邦が宛てた文書に記されています。

武田軍は堅固な鉢形城の攻略を諦め、次の攻撃地である滝山城(東京都八王子市)へ進撃していきました。同月27日に小田原城に到着した武田軍は、数日包囲し城下を放火した後、兵を引き返します。氏邦は兄氏照とともに追撃の軍勢を率い、津久井郡に進軍、三増峠(神奈川県愛川町)に陣を張っていました。小田原城の氏康・氏政は、氏照・氏邦の軍勢と武田軍の挟み撃ちを企てます。しかし、それを察した武田軍は、氏照・氏邦軍に対し、志田峠(神奈川県愛川町)を迂回させた山県昌景らの軍勢に側面を攻撃させ、その結果武田軍が勝利し、甲州へ帰国しました。この合戦については、「甲陽軍艦」に記され、武田方が優勢に記されています。



北条氏邦書状(上杉家文書)

れている傾向はありますが、武田側も重臣浅利信種が戦死するなど、決して一方的な勝利ではなかったようです。北条氏は越相同盟に基づき、上杉氏に対し武田氏をけん制するため、西上

## 北条流鎗馬を

# 今年も行います

日時／10月19日(日) 午後2時～3時30分  
 場所／鉢形城公園外曲輪  
 内容／流鎗馬(疾走する馬上からの鎗矢を射る日本の伝統的な騎射の一種)  
 主催／寄居町秋の祭典実行委員会  
 共催／寄居町教育委員会  
 費用／無料  
 申し込み／不要  
 問い合わせ／文化財課(☎581・2121内線54)へ。

### 鉢形城公園外曲輪案内図

